

一般質問通告書一覧

平成30年度新城市女性議会
平成30年11月28日

新城市

平成30年度新城市女性議会一般質問通告者順序表

11月28日（水）午後1時～

- 1 花島 志保 議員（通告時間15分）
 - ・ 旧姓を使用しやすい職場環境づくりについて
- 2 浅井 架那子 議員（通告時間15分）
 - ・ 若者の新城市定住について
- 3 望月 慶子 議員（通告時間15分）
 - ・ 子育て支援 PR活動（若者層定住化計画）について
- 4 益子 アドリアナ 議員（通告時間15分）
 - ・ 新城に暮らす外国人の問題について
- 5 久嶋 里奈 議員（通告時間15分）
 - ・ 災害避難所等について
- 6 久保田 久子 議員（通告時間15分）
 - ・ 女性議会の通常開催について
- 7 岡島 百合子 議員（通告時間15分）
 - ・ 限界集落の過疎化対策について
- 8 新田 千恵子 議員（通告時間15分）
 - ・ 地域自治区地域活動交付金について

女性議会一般質問通告書

氏名 花島 志保

テーマ	旧姓を使用しやすい職場環境づくりについて
現状・課題 提案事項	<p>私は、今年の2月に再婚しました。10年間シングルで生きてきた後の再婚でした。その間、花島志保という名前で、家庭や職場や社会で過ごしてきました。私にとって名前は、それ全部で私自身を表すものでした。名前が変わるといのは、大げさかもしれませんが、身を引き裂かれるような、自分が自分でなくなってしまうような、そんな気がするのです。</p> <p>夫婦別姓はまだ認められていないので、戸籍上の姓は変わりましたが、社会生活上は姓を変えずに生きていきたいと思いました。私の職場では旧姓使用が認められ、現在旧姓を通称として使用していますが、市内で働くすべての人が旧姓使用できるような社会を望んでいます。働く女性からの要望があってから検討するのではなく、市内すべての事業所が旧姓使用可能な環境、旧姓を使用しやすい職場づくりに向けて取り組んで欲しいと願います。</p> <p>また、女性活躍加速のための重点方針において、女性活躍の視点に立った制度等の整備として、旧姓の通称としての使用拡大を挙げ住民基本台帳法施行令等を改正することを掲げています。旧姓を使用しやすい環境づくりに国も動いていると感じました。戸籍姓と、旧姓の関連性が公的に担保されるため、通称使用する人が増えるのではないかと思います。</p> <p>私と同じ思いの人は他にもいると思います。一人ひとりが自分らしく生きられる新城市であって欲しいと願います。</p>
質 問	<p>(1) 市内のすべての事業所で旧姓使用可能が理想ですが、まだ全て可能ではないと思います。まずは、新城市役所が率先して行うことが良いと考えますが、新城市役所では旧姓を使用できる仕組みはありますか。</p> <p>(2) 住民基本台帳法施行令の改正で、今後、何がどのように変わるのか、わかる範囲で教えていただきたい。</p>

女性議会一般質問通告書

氏名 浅井 架那子

テーマ	若者の新城市定住について
現状・課題 提案事項	<p>現在、人口減少や少子高齢化は日本全体の社会問題です。新城市でもこの問題は深刻であることを、私自身今までの経験で感じる事が多くありました。</p> <p>私は小学校から高校まで、新城で学び育ちました。大学進学の為、一度は地元を離れ名古屋で4年間暮らしましたが、地元新城が好きだということと、大学4年生時に参加していた新城市若者議会がきっかけとなり、就職先は実家からの通勤が可能な所を選択しました。私と同じように、一度新城を離れても戻ってくる同世代はもちろん周りに居ますが、多くの方が就いている職業として教師や保育士、市の職員などが大半で、市外の一般企業に勤めている友人と話していると、将来の定住地として地元である新城が選択肢にあることが少ないように感じる事が多いのが現状です。</p> <p>現在新城市では、私も参加させていただいた若者議会だけでなく、中学生議会や市民まちづくり集会などがあり、そういった市民自治に関わる地域活動は、地元愛や新城への理解を深める大変良い機会になっていると思います。私自身もそうであったように、定住地として新城を選ぶ理由の一つに、「その地域がなんとなくでも好きかどうか」という気持ちは必要だと思います。しかし、結婚など自分1人だけで決めるのではなく、最終的な定住地として選ぶには、働く場や子育て環境の充実、公共交通の利便性、街並みの景観など、様々な理由が関わってくると思うのです。</p> <p>そのような複数の理由を踏まえて考えた時に、現在の新城では私も定住地として選ばないかもしれないと考えると共に、一度地元を離れた若者が定住地として将来新城を選ぶようになることは、少子高齢化が進む新城にとって大変重要なことだと考えます。</p> <p>私がここでお話している「若者」といのは、一般的に生産年齢人口と呼ばれる層でもありますが、例えば20歳～30歳といった、就職をして結婚をするぐらいの世代に注目していただきたいです。</p> <p>新城のこれからの為により効果のある調査や取り組みを行っていただきたいという願いから、以下の質問をさせていただきます。</p>
質 問	<p>(1) 若者の流出入についての詳しい調査をされているか教えて下さい。(10代・20代・30年代別のそれぞれの流出入の現状や、Uターン・Iターン率など。)</p> <p>(2) 新城から流出している若者の推移や、流出先の地域分布などを調査されているか教えて下さい。</p> <p>(3) 現在実施している、または実施を検討している若者の定住促進に関する取り組みを教えて下さい。(若者向け定住アンケートなど)</p>

女性議会一般質問通告書

氏名 望月 慶子

テーマ	子育て支援 PR活動（若年層定住化計画）について
現状・課題 提案事項	<p>私は、平成8年に県の養成講座を受講し22年間子育てネットワークとして活動しております。その活動の一つとして4か月児検診時に、読み聞かせを行っております。かつては月平均40人ほどの子どもが受診しておりましたが、今では月30人を切る子どもの数となっており、活動を通じて子どもの減少を実感し、大変危惧しております。</p> <p>本市は人口数が毎年減少しています。高齢化が進み、子育てする若年世帯数は減少の一途をたどっています。このまま若年層人口が減り続けると市の存続すらできなくなる危機的な時代を迎えます。本市では、他市がまだ実施していないこども園保育料（3から5歳児）の完全無償など子育て中の世帯を対象にいろいろな支援をしています。しかし、新城市から通勤可能市町村に住む若年層世帯の方たちに周知されていません。</p> <p>新東名の新城インターチェンジもでき、JR飯田線、名古屋までの高速バス定期路線など交通網も改善され、東三河、浜松、岡崎、豊田、名古屋までが通勤可能な地になりました。本市の子育て支援内容を通勤可能地域に住む若年層の方たちに積極的かつ有効的にPRしていく方法を考えてはいかがでしょうか。</p>
質 問	<p>(1) 新城市のPRとして、「子育てするなら新城市」とアピールできないでしょうか。 ホームページ、シティープロモーション等で、現在行っている様々な子育て支援策を、市外に向けて積極的にPRすることはできないでしょうか。</p> <p>(2) 市と不動産業者が連携して若い世代でも購入可能な価格の住宅地や中古物件住宅（空き家、借家含む）を選定し、PR活動を展開していくようにできないでしょうか。</p>

女性議会一般質問通告書

氏名 益子 アドリアナ

テーマ	新城に暮らす外国人の問題について
現状・課題 提案事項	<p>私は、20年前に夫と長男の3人でブラジルから日本へ来ました。その後、新城で長女を出産し、新城市内の学校へ通わせながら子育てをしています。今、下の子は高校受験に向けて勉強をがんばっており、上の子は社会人として働いています。子どもたちは日本社会で、日本語を話し、親の私たちよりも日本に馴染んで生活しています。</p> <p>そんな私たちが「出稼ぎ」として日本に来たばかりの当時は、異なった文化や言語に慣れることはとても大変でしたが、5年ぐらい働いたらブラジルに帰る人がほとんどでしたので、大きな問題ではありませんでした。</p> <p>時は過ぎ、20年前に日本へ来た「出稼ぎ」たちの間で家族ができ、家を買って、今では日本永住権を持つようになりました。しかし、「出稼ぎ」たちは日本語を話せず、また、その子どもたちが両親の母国語を話せないため、親子で会話をするのが難しくなっています。そして、その子どもたちが日本での生活のことで誰に相談してよいかわからない状態になってきているのです。そして、高校生の妊娠、また、それを理由とする高校中退が増えてきています。仕事を持たない十代の親を持つことになるその子ども達は、社会に通用する人間になるのでしょうか。貧困が貧困を生む状態が続いてしまうのではないかと心配です。大きな問題となる前に、今のうちに何か手を打てたらと思っています。</p> <p>名古屋にはNPO法人のSABJA（サビジャ）という団体があり、外国人が日本社会に適応するための様々な分野の支援をしています。ポルトガル語でプロのコウンセラーに相談もできるので、近くにあったらいいなと思っています。</p> <p>また、ブラジル人同士でも助け合えたらと思い、現在「ママカフェ」を自宅で開いています。日本に来たばかりの人々も招いて、困ったことがあったら相談し合える場として利用しています。もっと広い場所でもっと多くの人を招きたいなと思っています。</p> <p>そして、日々感じていることとして、市からの情報がもっと欲しいということです。多くの外国人は、先日の台風の時に避難所が開設されたことを知りません。花火大会や新城ラリーがどこで見られるのかも知りません。さまざまな情報をSNSなどで発信してもらえると、非常にわかりやすくいいなと思います。</p> <p>市役所と私たち外国人市民が一緒になって取り組めば、お互いのトラブルが減り、より暮らしやすくなるのではないかと常々思っています。</p>

質 問	<p>(1) 名古屋のSABJA (サビジャ) まで相談に行くのは大変なので、せめて月に1回でも新城市に派遣してもらうことはできますか。</p> <p>(2) 情報交換の場として現在「ママカフェ」を自宅で行っていますが、もっと多くの人が集まれる場所を設けることはできませんか。</p> <p>(3) 市のポルトガル語のフェイスブックページを開設し、市役所からのあらゆる情報を発信することは可能ですか。</p>
-----	--

女性議会一般質問通告書

氏名 久嶋 里奈

テーマ	災害避難所等について
現状・課題 提案事項	<p>昨今、各地域で大きな災害が起きています。</p> <p>9月30日に新城市にも影響を及ぼした台風24号。中部電力管内、愛知県内で約232,010戸の大規模な停電が起り、私の住む作手地区も約3日間停電が続いていました。その中、作手地区は1時間に102ミリの猛烈な雨を観測され、記録的な短時間大雨情報も出されました。しかし、停電の為に10月1日夕方頃には携帯電話の電波も無くなり、情報も入手出来ず、また、発信すらできなくなりました。家族・近所などでお互いに助け合うことで乗り越えた事もあるかと思いますが、特に一人暮らしのご高齢の方は、助けを呼びたくても連絡出来ず、きっと不安も多くあったかと思います。これらの出来事は、今後、発生が予想される南海トラフ地震をはじめ、多くの災害でも想定されます。</p> <p>作手地区は指定避難場所として、旧小学校4校などがありますが、台風接近時にまず開設されるのは、作手中学校の体育館です。建物としては古い体育館で雨漏りもひどく、現状避難される方は少ないです。避難しやすい場所であるのか、避難して安全な場所なのか、雨の音が響き不安に感じる場所ではないのか、今一度検討していただきたいと思います。幸い、今まで避難しなくても助かっていたという状況にあったのかと思いますが、今後を考えていくと、まだ指定緊急避難場所、緊急避難所として指定されてはいませんが、新たに建設されたつくで交流館、作手小学校には多くの人が集いやすい環境かと思います。</p> <p>また、作手のように僻地から新城市街地や、他市へと仕事に向かう方が多いと思います。外に出ている時に災害が起こった場合、帰宅経路などを確認する方法などはあるのでしょうか。</p>
質 問	<p>(1) 自主防災などの訓練を繰り返しおこなっている災害意識の高い地域と、低い地域など格差もあると思います。実際に災害が予想されると、防災行政無線などを通して早く避難所も開設されていますが、より安全に多くの方が防災意識を持ち避難する方法は格差を無くすように新城市全体として考えられているのでしょうか。</p> <p>(2) 土砂災害などが起きた際、作手の様に僻地から新城市街地、他市に仕事へ出ている方や学生などは、どこの道を通り帰宅することが可能なのか、通信ネットワーク使用不可の場合、HP以外にも情報を知り得る方法などはありますか。</p> <p>(3) 作手地区は作手中学校が最も早く避難所として開設されますが、指定緊急避難場所、緊急避難所として新たに「つくで交流館」「作手小学校」が開設されて行く予定はありますか。</p>

女性議会一般質問通告書

氏名 久保田 久子

テーマ	女性議会の通常開催について
現状・課題 提案事項	<p>これまでの、女性議会で取り上げられてきた案件を拝見し、女性ならではの細かく見えづらく明るみに出ない問題点を取り上げてきていることがわかります。</p> <p>生活者の私達のすぐそばにある問題や不安や疑問。不便だと思いつつも、嫌だと思いつつも、困りつつも、仕方がないと心にしまうものや、言いたくてもどこへどのように言ったらいいのかわからず、ただ耐え凌ぐ方が多い中、声を上げ、問題に立ち向かう事は私達の生活をより良くするためでもあり、女性の視点から見ているため子供達の生活まで行き届く事になり、女性議会のあり方は本当に素晴らしいと思います。</p> <p>しかし、問題点や疑問などを解決しようとする女性議会があるのにも関わらず、数ヶ月の日程、一回の議場では、なんの解決にもならず、ただのパフォーマンスのように感じます。一つの疑問から色々な疑問も生まれ、根本的な要因に至るまでたくさんの情報と時間が必要になります。話し合いをする中から、すでにあった解決の政策や、他の市にはない独自の政策などを改めて知る良い機会にもなります。女性は、子育てに忙しい、仕事も家事も。と言われますが、決してスーツを着て、机で話し合いをすることだけが、議会ではありません。女性議会のスタイルを会議室には持ってこず、今ある各スタイルのコミュニティ、世代別のコミュニティなど、ママさんからシルバーさんまでのコミュニティに女性議会のネットワークを繋げる事によって、今まで地域に係わりの少なかった女性の声が届くようになり生活にリアルに直結している女性の考える、市への要望・希望・問題点などが明確に打ち出され、現状への理解・改善の要請が生まれ、住みやすくするため自分達が声を上げる市民自治に直結してくるような気がします。そして、コミュニティが繋がることによって例えば世代別から実体験のアドバイスや、今の時代の新しい情報を取り入れられたりできるのであれば、悩みや不安は解決の糸口を掴むいいチャンスを得ることにもなります。女性議会がただの名ばかりのパフォーマンスではなく、本気でこの市をよくしていこう、そして市民自治の一環になるように通常開催をお願いしたいです。</p>

質 問	<p>(1) 「女性議会」という名称、「議場での発表」など、硬い言葉でハードルを高く上げているように感じます。一人一議題とする今のスタイルではなく、各コミュニティからの意見、質問、要望・現状確認など、グループでの参加を認めて頂くことはできませんか。</p> <p>(2) 短期間では、要望だけの一方通行で、出される返答も現状の確認だけで終わってしまう気がします。問題や改善要望は、たくさんの現状を知ることから始まります。そのためには、時間をかける必要があります。 短期間のパフォーマンスではなく、真剣に問題と向き合うため、一年を通し通常開催していただけないか。</p>
-----	--

女性議会一般質問通告書

氏名 岡島 百合子

テーマ	限界集落の過疎化対策について
現状・課題 提案事項	<p>16年前、他にはない景観の美しさに魅了され阿寺・大沢地区に移住してまいりました。買い物や通院などで長篠・新城まで行くためには、バスがありますが本数が少なく、又最寄りのバス停から通院先や買い物などに行くには、長く歩行できない高齢者はタクシー利用となります。買い物弱者への支援の充実が必要だと思えます。現在、市から発行されているタクシー利用助成券も1回700円の助成だけのため、その何倍も料金が必要となるため、到底利用できるものではありません。年間の利用限度額等の設定で活用できるようになればと考えます。</p> <p>また、阿寺大沢地区は各住宅周辺の環境整備（草刈り・除草・枝払いなど）がしっかりされていて、どの家からもお互いの家が見渡せて安全・安心をここで住む住民の手でしっかり実践できています。気持ちよく生活している環境の良いこの阿寺地区も、ここ2・3年前から、村を離れて他の地域に移住される家庭がでてまいりました。理由は、子供さんの通学問題や老人の一人暮らしなどです。他の地域への移住者だけでなく、住民の高齢化も進み、住宅周辺及び道路脇の草刈りなどができなくなってきつつあります。放置された田畑など環境が悪化し、それに伴う害獣（猪、鹿、ハクビシン、猿など）の出没も増加しています。高齢者が住み慣れた地域で一日でも長く幸せに自宅で過ごすためには、自分の土地で自分の役割として家庭菜園などをしながら、近隣住民と触れ合い生きがい・やりがいをもって生き活きと気持ちよく暮らすことで健康寿命も長くなると考えます。10年後には更に空き家・空き地が増加し環境の悪化が予測できます。</p> <p>次の世代の人たちが、この限界集落にどんどん入ってきてくれるような魅力ある村づくりに行政にお力を貸していただきながら地域住民と一丸となって取り組めたらよいと願い、次のことについて質問いたします。</p>

質 問	<p>(1) 市から発行されているタクシー利用助成券も1回700円の助成だけではなく、年間の利用限度額等の設定での活用ができる仕組みにはならないでしょうか。</p> <p>(2) 近隣住民が、車をシェアして、運転できる住民がその車で買い物・通院などを行い、車及び運転手保険・同乗者保険などの補助金制度の検討はできないでしょうか。</p> <p>(3) 農地などを持たない都会に住む人々や豊橋技科大学等の学生や留学生の夏休みなどに、地域の人材を活かし草刈り機やチェーンソーの講習を行い、草刈り・草取り、伐採などをしていただければ、村民との交流となり、活性化されと考えますが、その際の、ボランティア保険・温泉券などの補助の仕組みがあればと考えますがいかがでしょうか。</p>
-----	---

女性議会一般質問通告書

氏名 新田 千恵子

テーマ	地域自治区地域活動交付金について
現状・課題 提案事項	<p>私は小学校とこども園に通う3人の子どもを育てています。そして、今年度は地域の子どもたちが集うミニバスケットボールチームの代表を務めています。この活動は子どもたちの健康な体を作ることだけでなく、友達や地域の人たちと輪を作り、この地に愛着を持ちながら成長していくためにはとても貴重な場であると思いますので、これからも大切にしていきたいと思っています。</p> <p>そんなとき、前代表から「地域活動交付金という制度があるらしいから手を挙げてみないか」とアドバイスがあり、市役所に出向きこの交付金についての説明を受けました。実際に話を聞いてみると、私たちの様に地域で活動する人にとって、資金的な援助やPRの協力を受けることができるということで、とても良い制度であると思います。書類作成のために何度か市役所に足を運び、プレゼンをして、この交付金を受けることが決まり、今年度はバスケットボールという小さな世界だけではなく、地域の世代を超えた方々との交流をしながら楽しく活動させていただいています。交付金の申請のために、チームみんなで企画することも楽しく、保護者同士がより仲良くなり、またチームワークも膨らみ、活動がより活発になっていることを実感しています。</p> <p>地域のみなさんに認められ地域で育まれている活動となっていると感じながらも、この活動交付金のことを教えてもらうまで全く知らなかったことを改めて思い返しました。とても良い制度なのに、なぜ知らなかったのか、あまり周知されていないのではないかと思います。また、プレゼンをしたときも、子育て中や働き盛り世代の発表者は少なく、年配の団体かこども園関係者のみでした。もっと幅広い世代が利用しやすくなると良いと思います。私は、たまたまパートで働いているため、平日の日中も割と動きやすかったですが、日中働いている人には、平日の昼間に何度か市役所に来るというのは大変かと思います。より多くの人に新しい事で活用されるべきだと思いますが、制度を知ったうえでも行動に移せない方も多いのではないかと、さまざまな疑問が頭をよぎります。</p> <p>とても良い事業だったので、もっといろいろな人に知ってもらい活用してもらいたいです。</p>

質 問	<p>(1) 現在、この交付金を活用している方の世代が偏っているように思いますが、どのようにしたらもっと幅広い世代の市民に、この制度を周知できるとお考えですか。</p> <p>(2) 地域活動交付金のことを分かっていて活用したいけれども実行できない方へのサポートや説明などが不足しているとお考えですか。</p>
-----	---